

令和3年度 第3回 射水市認知症初期集中支援チーム検討委員会（書面開催）議事録

1 日 時：令和4年2月25日（金）～令和4年3月8日（火）

2 委 員：島多会長、松浦副会長、矢野委員、北林委員、稲田委員、永野委員
毛利委員、櫻田委員、森委員、阿部委員、長谷委員、新谷委員

3 報告事項

令和3年度 認知症相談対応等の状況について

4 会議資料

- ・認知症相談対応等の状況について 資料4
- ・認知症初期集中支援チームに関する資料 参考資料3

5 書面開催概要

令和4年2月25日、委員宛に書面による審議について通知し、意見の回答を依頼した。報告事項について2月25日から3月8日までの期間中、12名の委員に審議いただき、12名から回答が得られた。委員からの意見を取りまとめ、送付した。

6 委員からの意見 別紙1参照

1. 認知症初期集中支援チーム検討委員会 委員からの意見

資料番号・ページ	意見
資料 4 ・ P2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知機能検診により、早期発見・介入の重要性が明確であると理解しました。 ・ 認知機能テスト、MCIスクリーニング検査の拡充に努めたいと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の中にある認知症観を変えてゆくことが必要だと思えます。認知症にはなりたくない、何もかも分からなくなる、人の尊厳もなくなり、人間らしさまで失ってしまうという負のイメージです。認知症の人は色々な問題を抱えながらも、人として一生懸命に生きています。支援があればまだ出来ることも多くあります。認知症観を認知症の人の発表などを通してあらためる機会としたいと思えます。 ・ MCIスクリーニング検査はまだ未完成の検査と思っています。検査して悪い事はありませんがコストが高い様に思えます。

2. 認知症初期集中支援チーム検討委員会 委員からの質問

資料番号・ページ	質問
資料 4 ・ P1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症初期集中支援チーム対応状況が減少している理由がありましたら教えてください。 <p>【回答】</p> <p>認知症初期集中支援チームは、「医療・介護のサービスを受けていない者または中断している者」を集中的に支援するものです。令和4年3月10日現在の対応件数は5件で、対応件数は減少傾向にあります。</p> <p>その理由として、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所が情報共有ツールやICTを活用して医療機関との連携を進めることで、適切な診断、継続的な受診、適切な介護サービスへの結び付けが可能となってきていると考えます。</p> <p>また、認知機能検診の実施により医療機関への受診がしやすくなり、合わせて事後支援を充実する事で早期の介入、円滑な相談につながっていると考えます。</p>

令和3年度 第3回射水市認知症初期集中支援チーム検討委員会(書面開催)

1 報告事項

令和3年度 認知症相談対応等の状況

資料4

参考資料3 認知症初期集中支援チームに関する資料

1 認知症に関する相談対応の状況

(1) 認知症に関する住民相談

	R元年度		R2年度		R3年度 (R4.1末)	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
新湊西包括	51	384	50	568	48	324
新湊東包括	38	212	47	372	45	288
小杉・下包括	66	233	83	345	84	298
小杉南包括	47	248	45	479	47	298
大門・大島包括	103	305	89	335	77	264
計	305	1,382	314	2,099	301	1,472

住民相談の内容により、困難な事例は包括支援センターと市地域福祉課で支援方針を検討

(2) 困難事例等の検討

	R元年度		R2年度		R3年度 (R4.1末)	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
対応件数	44	95	57	130	30	39

医療や介護につながらない者や中断している者、認知症の行動心理症状が顕著で対応に苦慮している者等は認知症初期集中支援チームでの対応を検討

(3) 認知症初期集中支援チーム対応状況

	R元年度	R2年度	R3年度 (R4.1末)
対応件数	11	7	4

R3年度 (R4.1末) 対応者の状況

・年齢、性別の内訳

	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計
男性			1	1		2
女性		1	1			2
計	0	1	2	1	0	4

・相談者 (延数)

内訳	件数
本人	1
家族・親族	1
警察	1
地域包括支援センター	1
計	4

・相談内容 (延数)

内訳	件数
認知症疾患の臨床診断を受けていない	2
継続的な医療サービスを受けていない	1
適切な介護サービスを受けていない又は中断	3
BPSDが顕著なため対応に苦慮している	1
計	7

対応結果については、令和4年度第1回の協議会にて報告予定

2 情報共有ツールを使用した多職種連携

(1) 認知症共有ツール・多職種連携票の使用

	R2年度	R3年度 (R4.1末)
使用件数	39	33

相談機関（地域包括支援センター）より、医療機関へ情報共有ツール（認知症情報共有ツール・多職種連携票等）を使用し、認知症の人が医療機関を受診する際に、生活状況や困り事を相談する。医療機関からは、相談機関へ在宅生活における助言を行う。

(2) 射水市多職種連携支援システム（ICT：情報通信技術）を活用した連携

	R2年度	R3年度 (R4.1末)
認知症の人の連携件数	10	7

射水市多職種連携支援システム（ICT）を活用し、医療機関及び介護保険サービス事業所等が、認知症の人や家族の生活状況や思い、支援状況の書き込みを行う。

緊密な連携により認知症の人や家族の思いに寄り添い、円滑な支援が可能となっている。

3 認知機能検診における事後支援状況

(1) 認知機能検診受診結果

R2年度	認知機能テストのみ	異常なし	認知症疑い			
		127	9			
	認知機能テスト・MCIスクリーニング検査	異常なし	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	
		36	2	0	0	
R3年度 (R4.1末)	認知機能テストのみ	異常なし	認知症疑い			
		127	5			
	認知機能テスト・MCIスクリーニング検査	異常なし	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	
		20	4	2	3	

認知機能テストの結果、MCIの疑いがある方へMCIスクリーニング検査（血液検査）を実施。

(2) 地域包括支援センターによる事後支援

対象 ①認知症疑い ②認知機能テスト・MCIスクリーニング検査受診者

「(1) 認知機能検診受診結果」の内、網掛け部分 が対象。

	R2年度	R3年度 (R4.1末)
事後支援件数	47	34

内容 訪問・電話・来所により、受診状況の確認、生活上の困り事がないかを聞き取り、生活支援・助言、受診調整、要介護認定等のケアマネジメントを行う。

効果 認知症・MCIが疑われる段階からの専門職による早期介入により、適切な診断、継続的な受診、適切な介護サービスへの結び付けが可能となっている。

また、受診者や家族にとっては相談先が明確となり、円滑に相談をすることができる。

認知症初期集中支援チームに関する資料

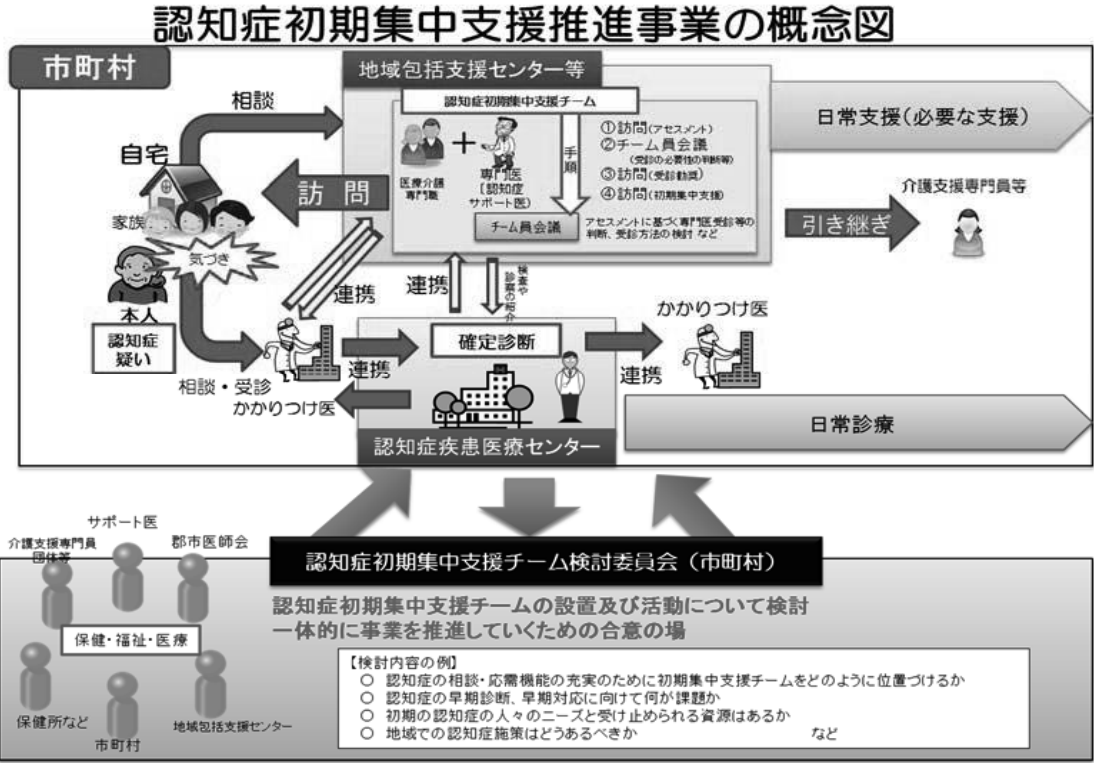
【認知症初期集中支援事業の全体像】

市町村を実施主体として、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」（以下「支援チーム」という。）を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的としている。

この専門職で構成される支援チームは、地域包括支援センター等に配置され、家族の訴え等により認知症が疑われる人や、認知症の人及びその家族を訪問し、観察・評価し家族支援などの初期の支援を、専門医療機関やかかりつけ医と連携しながら、包括的、集中的に行う。また支援チームは、対象者が必要な日常支援や日常診療に結びつくように支援を行い、介護支援専門員に引き継ぐという個別支援を行うものである。

同時に、市町村においては保健・医療・福祉に携わる関係者等から構成される「認知症初期集中支援チーム検討委員会」を設置し、支援チームの設置及び活動について検討するとともに、地域の関係機関や関係団体と一体的に事業を推進していくための合意が得られる場となる様努めることとしている。

また、支援チームと医療関係者との連携を図るため、認知症疾患医療センターや地元医師会との事前協議や主治医（かかりつけ医）に対する連携票などの情報の共有化に向けたツールの作成やそれを用いた地域の連携システムの構築を図る事も重要である。



【認知症初期集中支援チームの役割】

1 定義

認知症初期集中支援チームの「初期」という言葉の意味は、①認知症の発症後のステージとしての病気の早期段階の意味だけでなく、②認知症の人への関わりの初期（ファーストタッチ）という意味をもつ。すなわち、対象となる認知症の人は初期とは限らず、中期であっても医療や介護との接触がこれまでなかった人も含まれる。

また、「集中的」の意味は概ね6ヶ月を目安に本格的な介護チームや医療につなげていくことを意味している。

活動開始時については②が中心となるが、将来的に早期対応、早期支援機能が充実するなど、地域のケアパスが定着すれば①の対象者が中心となってくることが予測される。

①認知症初期集中支援チームの定義

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人（以下「訪問支援対象者」という。）及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行い、自立支援のサポートを行うチームをいう。

②訪問支援対象者の定義

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で、以下のア、イのいずれかの基準に該当する者とする。

- ア 医療サービス、介護サービスを受けていない者、または中断している者で以下のいずれかに該当する者
- (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない者
 - (イ) 継続的な医療サービスを受けていない者
 - (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない者
 - (エ) 診断されたが介護サービスが中断している者
- イ 医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している